水源環境賞

川の変化と将来

横浜市立新羽中学校
三年　加藤　千尋

私の住んでいる場所の側には、鶴見川という川が流れています。歴史のある大きな川で、小さい頃にはよく河原で友達と遊んだりした思い出のある場所でもあり、今でも地域の子供から大人まで、沢山の人と関わりのある川です。

ですが、私は鶴見川について、一つ気になっていた事があります。

私が小学生の頃、友達と河原でボール遊びをしていた時、勢いあまってボールが川の方へ飛んでいってしまい、普段は近づかない茂みの奥へボールを取りに行った所で、衝撃的な光景を目の当たりにしました。缶やペットボトル、傘やタイヤなどのゴミの山。黒く濁り油の浮いた水。あたりに漂う異臭。普段遊んでいる場所の近くにこんな所があったのか、これ程汚いと、まわりの動植物に悪い影響が出るのではないか。今でもよく覚えているので、本当に大きなショックだったのだと思います。

その出来事から十年弱たった今、鶴見川はどうなっているのか。私は、ここ数十年の鶴見川の水質の変化について調べました。

今から数十年前、鶴見川は「水害、汚染、ごみの川」と呼ばれていた時期がありました。鶴見川は蛇行が強く、江戸時代頃から近年までたびたび氾濫していました。それに加えて、川周辺の市街地化や、工場が多く建つなどの発展から、生活排水や工業排水の影響が出はじめたことにより、そのような呼び名が広まりました。日本で二番目に汚い川というフレーズを聞いたことがある人が居るかもしれませんが、この順位は元にされているデータの数が少なく、事実とは異なった結果となっています。水質の状態を表すＢＯＤ値というものが、約一・五倍程高いことから、水質の悪さは確かだったことがわかります。

しかし、これらは今から約二十年以上前の鶴見川の状態です。そこから鶴見川は、劇的な変化を遂げていまし

た。

都市河川の水質の改善には、下水道の普及が必要不可欠です。鶴見川周辺の都市では、その普及率が、十五年前から急速に増加しています。平成三十年時点で全国の都市河川の平均的な普及率が約七十三％なのに対して、横浜川崎域で約九十九％、町田域で九十二％ととても高い普及率を誇っています。また、ＢＯＤ値も十年前に比べておよそ半分にまで減少しました。さらに横浜市では、港北、都筑、北部第一をはじめ十一ケ所で水再生センターが稼働しており、水質の改善に努めています。

その他に、川周辺の生態系を守る取り組みである川のゴミ拾いや、川の生き物について学ぶイベントが定期的に開催されており、私も何回か参加したことがあります。ここ数年では、アユなどのきれいな水の川にしか住まない魚が観測されるなど、鶴見川の変化は確実に表れており、沢山の人々の協力によって、さらに良い川へと進化しています。

私が気になっていたあの場所も、今ではきれいな川辺になっていて、近くの河原では、毎日のように遊んでいる人たちが居ます。このように鶴見川は、沢山の人々による様々な協力によって、水質が改善されていっています。少しでも川のためになる行動をとれば、近い将来、必ず私たちに返ってくるでしょう。みなさんは身の回りにある川について考えたことがありますか？　ぜひ一度、自分たちの川の将来について意見を出してみてください。それは、やがて自分自身の未来に関わってくると、私は思います。